

敦賀高校創生部

高校の部活動で敦賀の魅力を発信

多様性を受け入れてきた
港町の歴史に着目し活動

敦賀高校創生部は、「敦賀市を多くの人から愛される街にしたい」という思いを持つ生徒たちが結成した新しいスタイルの部活動です。2020年9月、新型コロナウイルスの感染者や医療従事者に対する誹謗中傷等の差別問題を知ったことをきっかけに、当時の一年生有志(21名)で発足しました。かつてポーランド孤児やユダヤ難民を温かく受け入れた敦賀の歴史や多様性に寛容だった港町の特性を街づくりに役立てたいと考え、「地元敦賀を差別問題を発生させない、よりよい街に！」

との思いから活動が始まりました。現在の部員数は41名、部長の吉田康さん(2年生)は、「将来、社会科の教員になりたくて、地元の歴史を知りたい。副部長の山中萌々華さん(2年生)は「普通の生活では経験できないことをできると思っており、同じく副部長の佐本奈穂さん(2年生)は「地域貢献がしたかったから」と、それぞれの思いで活動されています。

敦賀ムゼウムでのガイド活動

創生部の主な活動が敦賀市の資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」での館内のガイドです。「敦賀ムゼウム」は、外交官だった杉原千畝が発行したビザによってポーランドから逃げたユダヤ難民が敦賀

にたどりついた歴史を伝える博物館。吉田さんたちも創生部の先輩から活動を引き継ぎ、ガイドを務めています。来館者は大人から子どもまで幅広いため、「年下の人には難しい言葉をわかりやすい言葉に直し、伝わりやすくしています」(山中さん)、「原稿を丸暗記するだけでなく、ポイントを絞って強弱をつけたり、自分なりに改善しながら話しています」(吉田さん)と、自分たちでも歴史を調べたり、話し方を工夫したりしながら、よりよいガイドの仕方を探求されています。

高校生ブランドを活かし、幅広い活動や交流を

ガイド以外にも、魅力的な場所取材してWEB記事を作成したり、敦賀の新名物となるお菓子づくりに取り組んだり、創生部の活動は多岐にわたります。今年3月16日、北陸新幹線敦賀駅開業時には地元ベーカーリーの協力のもとポーランドの伝統菓子を「敦賀ポンチキ」として発売、話題となりました。

した。(写真右)

活動を通して交流も広がっています。戦後の引揚者の歴史を紹介する舞鶴引揚記念館の学生語り部との交流もその一つ。今年7月には舞鶴へ赴いて中・高生のガイドを聞き、意見交換などの交流を実施。「良いところは自分たちのガイド活動にも取り入れていきたい」と刺激をもらっています。

今後は、「チームワークやリーダーシップなど、より探求の基礎づくりに力を入れていきたい」と話す吉田さん。高校生ならではのフットワークや話題性を活かした活動が、地元敦賀にフレッシュな活気を生んでいます。



ポーランドの伝統菓子「ポンチキ」は、中にジャムなどが入った揚げドーナツ。創生部では生クリームやイチゴジャムなどを入れた5種類を「敦賀ポンチキ」として販売。用意した618個が早々と完売しました。



(左から)創生部メンバーの佐本奈穂さん、山中萌々華さん、吉田康さん。「敦賀ムゼウム」でのガイド活動ではパートリーダーも務めています。



「人道の港 敦賀ムゼウム」でのガイド活動

のガイドです。「敦賀ムゼウム」は、外交官だった杉原千畝が発行したビザによってポーランドから逃げたユダヤ難民が敦賀

敦賀高校創生部についての情報はこちらから！

